

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設維持補修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10		1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大し、よりコスト縮減の意識を高める。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	トイレ改修事業を1校から3校へ拡充する。
②①に基づく取組み結果	中部小学校仮設校舎改修、第四中学校体育館床改修、第四中学校トイレ改修、第五中学校校舎外壁改修工事の実施完了。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	老朽化した小中学校施設の維持保全、教育環境の向上、及び学校の安全を図るため、施設の改修を計画的に行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の建設時期が一定期間に集中しており、それらが一斉に老朽化している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)小学校の校舎改修工事を実施し、施設環境の向上及び機能回復を図った。 (2)中学校の体育館床、トイレ、校舎外壁改修工事を実施し、施設環境の向上及び機能回復を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	校舎工事に関する生徒/全生徒	1.45	2.96	8.08	%	業務による取得
	ii	体育館工事に関する生徒/全生徒	4.16	45.9	5.02	%	業務による取得
	iii	その他工事に関する生徒/全生徒	5.48	11	0	%	業務による取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	57,001	146,816	金額(千円)	内容	225,674		
	国支出金(千円)		1,995	小学校工事設計			
	県支出金(千円)		13,629	小学校工事			
	市債その他(千円)	23,100	130,000	6,520	中学校工事設計	207,700	
	一般財源(千円)	33,901	16,816	124,672	中学校工事	17,974	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴い事業の進捗ペースを速める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い改修ペースを前倒しする必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	校舎外壁、トイレ改修等工事	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	計画された工事の実施完了	191,495	189,588	当初	191,495	146,816	H24からの繰越
				H24→25繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,907		
				平成26年度への繰越額(単位:千円)			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設耐震診断・改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2・3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業量の拡大に伴い、よりコスト縮減の意識を高める必要がある。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	平成25年度事業完了
②①に基づく取り組み結果	夏季休業中に工事を集中的に行い、工期を短縮することによりコストの縮減が図られた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	耐震診断の上、補強が必要なものについて耐震改修工事を行う。
②事務事業の概要	児童生徒の安全と緊急避難場所として地域住民の安全を確保するため、小中学校施設の耐震診断を実施し、診断結果により、補強工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	文部科学省において平成28年度までの速やかな完了を目標としている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	小中学校の耐震化を推進するため、小中学校の校舎7棟、体育館2棟の耐震改修工事を実施し、市内小中学校の耐震化を100%完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	耐震診断率	100	100	100	%	耐震診断棟数/対象数
	ii	改修設計率	77	100	100	%	改修設計棟数/対象数
	iii	改修工事率	55	77	100	%	改修工事棟数/対象数
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	873,342	556,650	金額(千円)	内容		0	
国支出金(千円)	410,726	294,131	381,465	小学校校舎・体育館耐震改修工事(7棟)			
県支出金(千円)			9,536	小学校校舎・体育館耐震改修工事監理委託(7棟)			
市債その他(千円)	421,200	262,100	161,637	中学校校舎耐震改修工事(2棟)			
一般財源(千円)	41,416	419	4,012	中学校校舎耐震改修工事監理委託(2棟)			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成25年度事業完了。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	平成25年度事業完了。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	校舎・体育館9棟の耐震化	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	校舎・体育館9棟の耐震化の完了	596,484	596,484	当初	556,650	H24からの繰越	556,650
				H24⇒25繰越		596,484	現年分
③達成状況	完了						
④未完了・非着手の理由							
		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設空調設備設置事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2・3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	H25新規	③平成26年度に取組む改革・改善内容	小学校9校に空調設備を設置する。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る。
②事務事業の概要	夏季期間の学習環境を向上させる為、小中学校の普通教室、特別教室等に空調設備を設置する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	近年の猛暑に伴い空調設備の設置要望が多く、近隣市においても同様の事業が検討されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	小学校空調設備設置工事設計の完了。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	設置工事实施設計			64	%	実施校数/全校数
	ii	設置工事			0	%	実施校数/全校数
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	0	12,741	金額(千円)	内容	1,269,414		
国支出金(千円)			12,741	小学校空調設備設置工事設計委託	121,521		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)					1,137,800		
一般財源(千円)		12,741			10,093		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業量が大規模な為小中学校を複数年度に分け実施する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	平成25年度予算を繰越して平成26年度実施とする。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	小学校実施設計	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	設計完了	12,763	12,763	当初	12,741	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正	12,763	現年分	12,741
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)		1,259,334			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	理科教育設備整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2・3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田 康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成24年度新規事業(全額繰越し、平成25年度実施)	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	新学習指導要領の実施に伴う、重点整備品目の整備を完了
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小・中学校	意図(対象をどうするのか)	理科教育環境の向上を図るため、学校のニーズにあった理科設備の整備
②事務事業の概要	新学習指導要領の実施に伴い、新たに追加された項目の指導に必要な設備を整備するために、理科教育設備整備費補助金を活用し理科備品を購入する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新学習指導要領の実施を推進するため、理科教育環境の更なる充実が求められており、理科備品の整備要望が学校から出ている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	新学習指導要領の実施に伴い、重点的に整備する品目の優先整備を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	学校数		14	14	校	業務取得
	ii	整備率		57.5	59.2	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	0	8,400	金額(千円)	内容			0
国支出金(千円)	0	4,099	5,400	小学校理科設備備品購入			
県支出金(千円)	0	0	3,000	小学校理科設備備品購入			
市債その他(千円)	0	0					
一般財源(千円)	0	4,301					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新学習指導要領が示される中で、実施にあたり良好な教育環境や設備の整備、充実が必要な状況である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	新学習指導要領の実施に伴い、重点的に整備する品目の優先整備を完了した。引き続き、理科教育設備の充実を図っていく。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	重点的に整備すべき品目を優先的に整備	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	理科教育設備整備事業費補助金を活用し理科備品を購入	8,400	当初		8,400	H24からの繰越	8,400
			H24⇒25繰越	8,400		現年分	0
③達成状況	完了		補正				
④未完了・非着手の理由			流用・充当				
		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設非構造部材耐震改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2・3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③平成26年度に取組む改革・改善内容	中学校5校のガラス飛散防止フィルム貼付、照明器具の耐震改修工事
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内全小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	非構造部材の安全性を確保する
②事務事業の概要	児童生徒と緊急避難場所としての地域住民の安全を確保する為、吊り天井構造の体育館の非構造部材の耐震改修を行うと共に、ガラス飛散防止フィルム貼付及び吊下げ照明器具落下防止対策を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	文部科学省でも非構造部材の耐震化を積極的に進めており、特に天井落下防止対策は平成27年度完了を求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	文部科学省では天井落下防止対策について平成27年度完了を目指しており、当市でも該当する小中学校各1校の体育館天井改修を行い、同対策を100%完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	天井落下防止対策			100	%	対策済校/対象校
	ii	ガラス飛散防止対策			0	%	対策済校/全校
	iii	照明器具耐震対策			0	%	対策済校/全校
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	0	40,310	金額(千円)	内容		123,138	
国支出金(千円)		13,570	1,460	小学校体育館天井改修工事設計委託			
県支出金(千円)			11,687	小学校体育館天井改修工事設計委託			
市債その他(千円)		26,700	703	中学校体育館天井改修工事設計委託			
一般財源(千円)		40	26,460	中学校体育館天井改修工事設計委託			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業量が大規模な為小中学校を複数年度に分け実施する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	体育館2棟の天井改修事業完了。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	対象となる体育館の天井落下防止対策を行う。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	該当する2棟の改修を実施。	41,216	165,582	当初	41,216	40,310	H24からの繰越	40,310
				H24⇒25繰越	41,216			
③達成状況	完了			補正	81,922		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当	1,228			
							平成26年度への繰越額(単位:千円)	123,138

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設用地整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2-3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柴田康弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③平成26年度に取組む改革・改善内容	鎌ヶ谷小学校、第三中学校用地の購入。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校施設	意図(対象をどうするのか)	施設運営に必要な用地を確保する。
②事務事業の概要	児童・生徒の活動環境向上の為、必要な用地を確保する(事業対象校:鎌ヶ谷小学校、第二中学校、第三中学校)。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	今後、平成26年度、鎌ヶ谷小学校、第三中学校用地を購入す。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	第二中学校用地購入の完了。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	用地の購入状況			33	%	購入完了/予定学校数
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	0	203,804	金額(千円)	内容	158,590		
国支出金(千円)			2,346	小学校用地購入に伴う測量等委託	28,600		
県支出金(千円)			100	契約印紙税			
市債その他(千円)			984	中学校用地購入に伴う測量等委託	107,000		
一般財源(千円)			200,374	中学校用地購入費	22,990		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成26年度に引き続き鎌ヶ谷小学校、第三中学校用地の購入を進める。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	第二中学校用地購入完了。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	第二中学校用地購入。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	購入の完了。	201,459	203,931	当初	203,804	H24からの繰越	0
				補正		200,475	現年分
③達成状況	完了			流用・充当	3,456		
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)					0

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	石井 孝宜			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校選択制について、保護者に正しく認識してもらうように周知を行っていく。ホームページやパンフレットなども再度見直し、より分かりやすいものへと変更していく。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	学校選択制は、市町村によって基準や手続きなどが異なるため、鎌ヶ谷市の制度についてよく理解していただくよう、引き続き周知方法などの検討を行う。
②①に基づく取組み結果	パンフレットの文章を一部、より分かりやすい表現に変更した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の入学予定者	意図(対象をどうするのか)	学びたい、学ばせたい学校に入学できる。
②事務事業の概要	学校運営の状況等を伝えながら保護者や地域住民等の意向を把握・反映し、その協力を得ていく学校評議員制度により、地域や社会に開かれた特色ある学校をめざす。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	これまで選択希望の学校には偏りが見られたが、その年その年で多少選択希望の学校に変化が見られるようになった。1校集中が以前より少なくなった。(抽選なし)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	小学校37人、中学校43人の児童生徒が学校選択制の申請をし、全員が希望の学校へ入学した。市内の全ての小中学校全に学校評議員をおき、保護者や地域住民等の意見を学校運営の参考にすることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	小中学校入学予定者数	1,931	1,988	1,887	人	業務取得
	ii	学校選択制申請者数	98	81	80	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	16,554	17,657	金額(千円)	内容		18,594	
国支出金(千円)			552		学校評議員報償		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	16,554	17,657					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	制度に対する周知徹底をめざしているが、毎年一部の保護者に制度に対する誤解が見られる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	制度が定着してきている一方、指定校変更等や他市の選択制度と混同してしまうなど鎌ヶ谷市の学校選択制を誤解されることもある。今後更に周知徹底が必要。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成25年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	山田 圭子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数教育指導教員研修会を充実させ、指導の工夫改善を図っていく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	効果的な少人数指導方法については、少人数教育指導教員研修会だけでなく、教務主任研修会等でも取り上げていく。
②①に基づく取組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内全小中学校に少人数指導教員(きらり先生)を市費で派遣し、児童生徒に対してきめ細かな学習指導を行うとともに、子ども達とのふれ合いや、教員同士の交流を深めることを通して学校の活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	21,533	21,444	金額(千円)	内容		26,413	
国支出金(千円)			21,148	少人数指導教員賃金			
県支出金(千円)			294	少人数指導教員校外学習引率時旅費			
市債その他(千円)			2	少人数指導教員校外学習引率時入場料			
一般財源(千円)	21,533	21,444				26,413	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新規人員の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	山田 圭子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育が必要と思われる児童生徒数が年々増加していることから、大規模校への複数配置を進める必要がある。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修の充実を図る。心理発達相談員による巡回相談を行い、専門的な支援・指導を行う。
②①に基づく取組み結果	特別支援教育推進指導教員を鎌ヶ谷小と中部小に2名配置した。教育委員会に心理発達相談員を2名配置した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内の小学校9校・中学校5校に特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を1名(大規模校は2名)ずつ配置し、通常学級に在籍するLD(学習障がい)、ADHD(多動性障がい)、高機能自閉症等の児童に対し、個のニーズに応じたきめ細かな支援・指導を行い、児童のよりよい成長を促す。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	一人一人の児童生徒のニーズにあわせて、特別支援教育のねらいを明確にし、効果的な学習形態で、きめ細かな指導を行うことができた。このような中で児童生徒は落ち着いて学習に取り組むことができるようになり、学び方や友達との関わりも好転し、学習の成果も上がってきた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	97	133	162	人	業務による取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	21	26	31	%	業務による取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	21,805	24,165	金額(千円)	内容		32,765	
国支出金(千円)			23,796	特別支援教育推進指導教員賃金			
県支出金(千円)			366	特別支援教育推進指導教員校外学習引率時旅費			
市債その他(千円)			3	特別支援教育推進指導教員校外学習引率時入場料			
一般財源(千円)	21,805	24,165				32,765	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導を迅速かつ継続的に行う。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	特別な支援を必要とする児童生徒が増加しており、本事業に対する保護者の期待も大きい。さらに指導・支援の充実を図っていく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	大規模校への複数配置	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷小と中部小に2名配置	30,055	30,055	当初	30,055	24,165	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)					